

令和6年度

諫早市下水道事業会計  
決算審査意見書

諫早市監査委員



7 諫監第35号  
令和7年8月25日

諫早市長 大久保 潔重 様

諫早市監査委員	谷 口 啓
諫早市監査委員	森 口 恭 子
諫早市監査委員	岩 竹 洋 一

令和6年度諫早市下水道事業会計決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された令和6年度諫早市下水道事業会計決算の審査を行ったので、その結果について次のとおり意見書を提出します。

## 目 次

第1 審査の概要	1
1 審査の対象	1
2 審査の期間	1
3 審査の方法	1
第2 審査の結果	1
1 事業の概要について	1
(1) 下水処理状況	
(2) 建設改良事業	
2 予算の執行状況について	2
(1) 収益的収入及び支出	
(2) 資本的収入及び支出	
(3) その他の予算事項	
3 経営成績について	7
(1) 営業収益及び営業費用	
(2) 営業外収益及び営業外費用	
(3) 特別利益及び特別損失	
(4) 原価計算	
(5) 剰余金計算	
(6) 各下水道事業別の経営成績	
4 財政状態について	13
(1) 資産の部	
(2) 負債の部	
(3) 資本の部	
5 資金収支の状況について	17
6 セグメント情報	18
7 むすび	19

### おことわり事項

- 1 本書中の各比率は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示している。
- 2 下記表現の説明は、次のとおりである。

「0」・「0.0」	該当数値はあるが単位未満のもの
「-」	該当数値がないもの
「皆増」	前年度に数値がなく全額増加したもの
「皆減」	当年度に数値がなく全額減少したもの
- 3 本書中に用いているポイントとは、パーセンテージ間の単純差引き数値である。

# 令和6年度諫早市下水道事業会計決算審査意見書

## 第1 審査の概要

### 1 審査の対象

令和6年度諫早市下水道事業会計決算

### 2 審査の期間

令和7年7月1日から令和7年8月25日

### 3 審査の方法

審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書及び付属明細書について、地方公営企業法等関係法令に準拠して作成され、当事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているかどうかを検証するため、総勘定元帳その他の会計帳票及び関係証書類と照合するとともに、必要に応じ資料の提出を求め、また、関係職員から事情を聴取するなどにより審査した。

審査に当たっては、当事業が経済性を發揮し、公共の福祉を増進するために運営されたかを検討するため、事業の経営分析を行った。

## 第2 審査の結果

審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書及び付属明細書は、関係法令に準拠して作成されており、当年度の経営成績及び当年度末現在の財政状態を適正に表示していると認められた。

審査の結果の詳細は、次のとおりである。

### 1 事業の概要について

#### (1) 下水処理状況

当年度末における接続人口は93,207人で、前年度に比べ1,376人(1.5%)増加しており、接続戸数は47,136戸で、前年度に比べ1,249戸(2.7%)増加している。普及率は80.0%で、前年度に比べ0.7ポイント上昇している。年間総処理水量は16,023,080m<sup>3</sup>で、前年度に比べ142,865m<sup>3</sup>(0.9%)増加し、年間有収水量は15,599,646m<sup>3</sup>で、前年度に比べ481,594m<sup>3</sup>(3.2%)増加している。有収率は97.4%で、前年度に比べ2.2ポイント増加している。

#### (2) 建設改良事業

当年度における建設改良事業の状況は、拡張工事では、公共下水道事業で大村湾処理区12件、372,567,300円、諫早湾処理区15件、472,640,200円、特定環境保全公共下水道事業で飯盛処理区12件、285,555,800円、高来処理区8件、191,137,100円である。

改良工事では、公共下水道事業で6件、43,454,700円、特定環境保全公共下水道事業で5件、90,759,600円、農業集落排水事業で11件、118,393,500円である。

主な拡張工事は、津久葉第7号污水幹線布設工事(R5-2工区)271,935,400円、小野第1号污水幹線布設工事(R5-1工区)115,082,000円、宗方地区污水管渠工事

(R 5－5 工区) 74,753,800 円である。主な改良工事は、本明川ダム建設事業に伴うポンプ施設移設工事 (R 6－2 工区) 40,227,000 円である。主な保存工事は、諫早中央浄化センター送風機分解整備工事 8,932,000 円である。

なお、建設資材の供給不足により年度内の完成が見込めない等の理由で、次年度へ繰越された事業は 45 件、繰越金額は 1,802,666,473 円である。

## 2 予算の執行状況について

当年度の予算の執行状況は、次のとおりである。

### (1) 収益的収入及び支出

区分	令和6年度				令和5年度	対前年度		(単位:円)
	予算額 (A)	決算額 (B)	構成 比(%)	増減額 (B)-(A)		決算額 (C)	増減額 (D) (B)-(C)	
<b>営業収益</b>	<b>2,864,368,000</b>	<b>3,060,989,290</b>	<b>54.8</b>	<b>196,621,290</b>	<b>106.9</b>	<b>2,923,954,950</b>	<b>137,034,340</b>	<b>4.7</b>
公共下水道事業収益	2,357,630,000	2,551,357,610	45.7	193,727,610	108.2	2,444,631,800	106,725,810	4.4
特定環境保全公共下水道事業収益	179,080,000	189,753,550	3.4	10,673,550	106.0	185,967,650	3,785,900	2.0
農業集落排水事業収益	226,820,000	225,677,250	4.1	△1,142,750	99.5	223,824,480	1,852,770	0.8
漁業集落排水事業収益	24,970,000	24,000,900	0.4	△969,100	96.1	24,111,440	△110,540	△0.5
公共下水道事業他会計補助金	60,978,000	56,086,000	1.0	△4,892,000	92.0	36,857,000	19,229,000	52.2
特定環境保全公共下水道事業他会計補助金	6,446,000	5,758,000	0.1	△688,000	89.3	3,497,000	2,261,000	64.7
農業集落排水事業他会計補助金	7,901,000	7,637,000	0.1	△264,000	96.7	4,781,000	2,856,000	59.7
漁業集落排水事業他会計補助金	365,000	262,000	0.0	△103,000	71.8	124,000	138,000	111.3
公共下水道事業その他営業収益	172,000	445,860	0.0	273,860	259.2	127,140	318,720	250.7
特定環境保全公共下水道事業その他営業収益	2,000	560	0.0	△1,440	28.0	2,080	△1,520	△73.1
農業集落排水事業その他営業収益	2,000	8,000	0.0	6,000	400.0	28,400	△20,400	△71.8
漁業集落排水事業その他営業収益	2,000	2,560	0.0	560	128.0	2,960	△400	△13.5
<b>営業外収益</b>	<b>2,483,908,000</b>	<b>2,523,281,402</b>	<b>45.2</b>	<b>39,373,402</b>	<b>101.6</b>	<b>2,510,074,024</b>	<b>13,207,378</b>	<b>0.5</b>
公共下水道事業受取利息及び配当金	257,000	894,203	0.0	637,203	347.9	212,958	681,245	319.9
公共下水道事業他会計補助金	614,619,000	602,226,000	10.8	△12,393,000	98.0	618,045,000	△15,819,000	△2.6
特定環境保全公共下水道事業他会計補助金	270,487,000	267,761,000	4.8	△2,726,000	99.0	263,834,000	3,927,000	1.5
農業集落排水事業他会計補助金	368,232,000	368,107,000	6.6	△125,000	100.0	374,983,000	△6,876,000	△1.8
漁業集落排水事業他会計補助金	18,120,000	18,200,000	0.3	80,000	100.4	17,831,000	369,000	2.1
公共下水道事業長期前受金戻入	668,286,000	688,072,278	12.3	19,786,278	103.0	663,396,712	24,675,566	3.7
特定環境保全公共下水道事業長期前受金戻入	239,635,000	239,653,640	4.3	18,640	100.0	251,285,496	△11,631,856	△4.6
農業集落排水事業長期前受金戻入	267,486,000	267,582,276	4.8	96,276	100.0	267,004,461	577,815	0.2
漁業集落排水事業長期前受金戻入	21,903,000	22,045,554	0.4	142,554	100.7	21,895,838	149,716	0.7
雑収益	14,883,000	48,739,451	0.9	33,856,451	327.5	31,585,559	17,153,892	54.3
<b>特別利益</b>	<b>8,000</b>	<b>505,120</b>	<b>0.0</b>	<b>497,120</b>	<b>6314.0</b>	<b>335,990</b>	<b>169,130</b>	<b>50.3</b>
固定資産売却益	4,000	-	-	△4,000	-	-	-	-
過年度損益修正益	4,000	505,120	0.0	501,120	12628.0	335,990	169,130	50.3
その他特別利益	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>合 計</b>	<b>5,348,284,000</b>	<b>5,584,775,812</b>	<b>100.0</b>	<b>236,491,812</b>	<b>104.4</b>	<b>5,434,364,964</b>	<b>150,410,848</b>	<b>2.8</b>

(税込み)

## (収益的支出)

(単位:円)

区分	予算額 (A)	決算額 (B)	令和6年度			令和5年度 (C)	対前年度	
			構成比(%) (A)-(B)	不用額 (%) (B)/(A)	執行率 (%) (C)/(B)		増減額 (D) (B)-(C)	比率 (%) (D)/(C)
営業費用	4,446,441,000	4,131,140,851	91.0	315,300,149	92.9	4,016,511,110	114,629,741	2.9
公共下水道事業管渠費	53,995,496	42,880,748	1.0	11,114,748	79.4	36,551,320	6,329,428	17.3
特定環境保全公共下水道事業管渠費	42,448,546	30,411,685	0.7	12,036,861	71.6	33,578,561	△3,166,876	△9.4
農業集落排水事業管渠費	92,726,708	79,556,035	1.8	13,170,673	85.8	64,191,314	15,364,721	23.9
漁業集落排水事業管渠費	2,231,500	1,001,744	0.0	1,229,756	44.9	1,100,647	△98,903	△9.0
公共下水道事業ポンプ場費	53,923,138	42,724,971	0.9	11,198,167	79.2	32,979,456	9,745,515	29.6
公共下水道事業処理場費	1,204,614,000	1,076,139,984	23.7	128,474,016	89.3	1,056,499,105	19,640,879	1.9
特定環境保全公共下水道事業処理場費	162,864,420	146,165,421	3.2	16,698,999	89.7	127,990,961	18,174,460	14.2
農業集落排水事業処理場費	171,857,692	158,371,100	3.5	13,486,592	92.2	158,853,388	△482,288	△0.3
漁業集落排水事業処理場費	16,516,500	14,831,035	0.3	1,685,465	89.8	11,100,959	3,730,076	33.6
公共下水道事業総係費	128,951,018	109,884,208	2.4	19,066,810	85.2	102,233,932	7,650,276	7.5
特定環境保全公共下水道事業総係費	19,447,000	15,967,539	0.4	3,479,461	82.1	14,592,103	1,375,436	9.4
農業集落排水事業総係費	26,299,982	22,709,614	0.5	3,590,368	86.3	21,292,611	1,417,003	6.7
漁業集落排水事業総係費	2,126,000	1,749,350	0.0	376,650	82.3	1,898,190	△148,840	△7.8
公共下水道事業減価償却費	1,386,486,000	1,386,938,093	30.5	△452,093	100.0	1,337,655,884	49,282,209	3.7
特定環境保全公共下水道事業減価償却費	480,438,000	452,868,355	10.0	27,569,645	94.3	472,574,368	△19,706,013	△4.2
農業集落排水事業減価償却費	495,451,000	494,315,074	10.9	1,135,926	99.8	490,685,616	3,629,458	0.7
漁業集落排水事業減価償却費	40,853,000	40,767,505	0.9	85,495	99.8	40,818,877	△51,372	△0.1
公共下水道事業資産減耗費	3,727,000	9,434,908	0.2	△5,707,908	253.2	10,956,372	△1,521,464	△13.9
特定環境保全公共下水道事業資産減耗費	3,700,000	1,938,269	0.0	1,761,731	52.4	117,183	1,821,086	1554.1
農業集落排水事業資産減耗費	57,766,000	2,188,510	0.1	55,577,490	3.8	798,228	1,390,282	174.2
漁業集落排水事業資産減耗費	14,000	296,703	0.0	△282,703	2119.3	42,035	254,668	605.8
その他営業費用	4,000	-	-	4,000	-	-	-	-
営業外費用	487,767,000	409,678,853	9.0	78,088,147	84.0	433,030,425	△23,351,572	△5.4
公共下水道事業支払利息及び企業債取扱諸費	242,572,000	223,113,022	4.9	19,458,978	92.0	231,327,433	△8,214,411	△3.6
特定環境保全公共下水道事業支払利息及び企業債取扱諸費	93,447,000	88,756,848	2.0	4,690,152	95.0	90,734,240	△1,977,392	△2.2
農業集落排水事業支払利息及び企業債取扱諸費	92,518,000	91,665,933	2.0	852,067	99.1	103,930,690	△12,264,757	△11.8
漁業集落排水事業支払利息及び企業債取扱諸費	5,458,000	5,456,560	0.1	1,440	100.0	5,643,412	△186,852	△3.3
消費税及び地方消費税	52,473,000	-	-	52,473,000	-	-	-	-
雑支出	1,299,000	686,490	0.0	612,510	52.8	1,394,650	△708,160	△50.8
特別損失	604,000	560,990	0.0	43,010	92.9	1,412,850	△851,860	△60.3
固定資産売却損	4,000	-	-	4,000	-	-	-	-
過年度損益修正損	600,000	560,990	0.0	39,010	93.5	1,412,850	△851,860	△60.3
予備費	5,000,000	-	-	5,000,000	-	-	-	-
合計	4,939,812,000	4,541,380,694	100.0	398,431,306	91.9	4,450,954,385	90,426,309	2.0

(税込み)

収入合計は 5,584,775,812 円で、予算額 5,348,284,000 円に対し、236,491,812 円多く、収入率は 104.4% である。

主な理由は、公共下水道事業収益が予算額を上回ったことによるものである。

支出合計は 4,541,380,694 円で、予算額 4,939,812,000 円に対して 398,431,306 円の不用額を生じており、執行率は 91.9% である。

不用額の主なものは、公共下水道事業処理場費 128,474,016 円、農業集落排水事業資産減耗費 55,577,490 円である。

## (2) 資本的収入及び支出

(資本的収入) (単位:円)

区分	令和6年度						増減額 (B)-(A)	収入率(%) (B)/(A)	令和5年度 (C)	対前年度				
	予算額			決算額 (B)	構成比(%) (B)/(A)	決算額 (D)				増減額 (D) (B)-(C)	比率 (%) (D)/(C)			
	当年度	繰越額	計 (A)											
企業債	2,358,400,000	1,189,200,000	3,547,600,000	1,722,900,000	51.1		△1,824,700,000	48.6	1,447,700,000	275,200,000	19.0			
公共下水道事業企業債	1,851,500,000	859,700,000	2,711,200,000	1,293,700,000	38.4		△1,417,500,000	47.7	1,209,900,000	83,800,000	6.9			
特定環境保全公共下水道事業企業債	391,100,000	327,400,000	718,500,000	392,000,000	11.6		△326,500,000	54.6	234,200,000	157,800,000	67.4			
農業集落排水事業企業債	115,800,000	2,100,000	117,900,000	37,200,000	1.1		△80,700,000	31.6	3,600,000	33,600,000	933.3			
漁業集落排水事業企業債	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-			
出資金	288,692,000	-	288,692,000	206,393,000	6.1		△82,299,000	71.5	234,528,000	△28,135,000	△12.0			
公共下水道事業出資金	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-			
特定環境保全公共下水道事業出資金	150,457,000	-	150,457,000	85,095,000	2.5		△65,362,000	56.6	107,095,000	△22,000,000	△20.5			
農業集落排水事業出資金	136,768,000	-	136,768,000	119,010,000	3.5		△17,758,000	87.0	127,239,000	△8,229,000	△6.5			
漁業集落排水事業出資金	1,467,000	-	1,467,000	2,288,000	0.1		821,000	156.0	194,000	2,094,000	1079.4			
補助金	1,440,915,000	720,958,390	2,161,873,390	1,344,864,034	39.9		△817,009,356	62.2	1,084,010,200	260,853,834	24.1			
公共下水道事業補助金	1,220,382,000	562,791,340	1,783,173,340	1,069,102,884	31.7		△714,070,456	60.0	862,215,500	206,887,384	24.0			
特定環境保全公共下水道事業補助金	134,350,000	158,167,050	292,517,050	189,578,150	5.6		△102,938,900	64.8	137,116,700	52,461,450	38.3			
農業集落排水事業補助金	86,183,000	-	86,183,000	86,183,000	2.6		-	100.0	84,678,000	1,505,000	1.8			
漁業集落排水事業補助金	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-			
負担金及び分担金	168,720,000	4,446,120	173,166,120	96,034,800	2.9		△77,131,320	55.5	109,429,400	△13,394,600	△12.2			
公共下水道事業負担金	80,632,000	-	80,632,000	61,674,900	1.8		△18,957,100	76.5	78,694,900	△17,020,000	△21.6			
特定環境保全公共下水道事業負担金	19,526,000	-	19,526,000	12,167,000	0.4		△7,359,000	62.3	14,575,500	△2,408,500	△16.5			
農業集落排水事業負担金	68,457,000	4,446,120	72,903,120	22,192,900	0.7		△50,710,220	30.4	16,107,800	6,085,100	37.8			
漁業集落排水事業負担金	105,000	-	105,000	-	-		△105,000	-	51,200	△51,200	皆減			
固定資産売却代金	4,000	-	4,000	-	-		△4,000	-	-	-	-			
合計	4,256,731,000	1,914,604,510	6,171,335,510	3,370,191,834	100.0		△2,801,143,676	54.6	2,875,667,600	494,524,234	17.2			

(税込み)

## (資本的支出)

(単位:円)

区分	令和6年度								令和5年度 決算額 (D)	対前年度	
	予算額		計 (A)	決算額 (B)	構成 比(%)	翌年度 緑越額 (C)	不用額 (A)-(B)-(C)	執行 率(%) (B)/(A)		増減額 (E) (B)-(D)	比率 (%) (E)/(D)
当年度	緑越額										
建設改良費	3,996,351,000	2,027,122,255	6,023,473,255	3,297,410,020	60.6	1,802,666,473	923,396,762	54.7	2,726,175,342	571,234,678	21.0
公共下水道事業拡張費	2,521,000,000	1,426,818,530	3,947,818,530	2,080,450,919	38.2	1,379,589,211	487,778,400	52.7	1,642,247,550	438,203,369	26.7
特定環境保全公共下水道事業拡張費	460,500,000	395,824,360	856,324,360	548,817,800	10.1	226,559,400	80,947,160	64.1	381,823,500	166,994,300	43.7
農業集落排水事業拡張費	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
漁業集落排水事業拡張費	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公共下水道事業改良費	347,710,000	72,446,100	420,156,100	210,151,300	3.9	165,579,000	44,425,800	50.0	296,175,000	△86,023,700	△29.0
特定環境保全公共下水道事業改良費	103,800,000	73,051,800	176,851,800	109,873,100	2.0	-	66,978,700	62.1	35,317,300	74,555,800	211.1
農業集落排水事業改良費	188,571,000	21,163,300	209,734,300	146,256,860	2.7	13,000,000	50,477,440	69.7	136,474,200	9,782,660	7.2
漁業集落排水事業改良費	1,496,000	-	1,496,000	1,496,000	0.0	-	-	100.0	-	1,496,000	皆増
公共下水道事業受益者負担金徴収費	16,098,858	-	16,098,858	14,990,571	0.3	-	1,108,287	93.1	12,320,281	2,670,290	21.7
特定環境保全公共下水道事業受益者分担金徴収費	12,312,000	-	12,312,000	10,981,899	0.2	-	1,330,101	89.2	9,901,657	1,080,242	10.9
農業集落排水事業受益者分担金徴収費	4,277,000	-	4,277,000	4,025,985	0.1	-	251,015	94.1	617,271	3,408,714	552.2
漁業集落排水事業受益者分担金徴収費	205,000	-	205,000	187,024	0.0	-	17,976	91.2	259,015	△71,991	△27.8
公共下水道事業有形固定資産購入費	6,725,580	-	6,725,580	5,290,702	0.1	-	1,434,878	78.7	2,338,269	2,952,433	126.3
特定環境保全公共下水道事業有形固定資産購入費	183,360	-	183,360	168,460	0.0	-	14,900	91.9	33,451	135,009	403.6
農業集落排水事業有形固定資産購入費	244,110	-	244,110	202,431	0.0	-	41,679	82.9	201,015	1,416	0.7
漁業集落排水事業有形固定資産購入費	125,600	-	125,600	119,088	0.0	-	6,512	94.8	148,539	△29,451	△19.8
公共下水道事業無形固定資産購入費	203,398,900	37,818,165	241,217,065	56,670,831	1.0	17,938,862	166,607,372	23.5	101,908,649	△45,237,818	△44.4
特定環境保全公共下水道事業無形固定資産購入費	253,000	-	253,000	248,000	0.0	-	5,000	98.0	4,747	243,253	5124.4
農業集落排水事業無形固定資産購入費	332,000	-	332,000	325,000	0.0	-	7,000	97.9	6,232	318,768	5115.0
漁業集落排水事業無形固定資産購入費	29,000	-	29,000	28,000	0.0	-	1,000	96.6	540	27,460	5085.2
公共下水道事業建設改良管理費	77,573,405	-	77,573,405	63,385,105	1.2	-	14,188,300	81.7	64,167,539	△782,434	△1.2
特定環境保全公共下水道事業建設改良管理費	30,496,990	-	30,496,990	24,367,306	0.4	-	6,129,684	79.9	23,304,132	1,063,174	4.6
農業集落排水事業建設改良管理費	21,017,477	-	21,017,477	19,371,919	0.4	-	1,645,558	92.2	18,926,455	445,464	2.4
漁業集落排水事業建設改良管理費	1,720	-	1,720	1,720	0.0	-	-	100.0	-	1,720	皆増
企業償償還金	2,155,631,000	-	2,155,631,000	2,155,628,599	39.4	-	2,401	100.0	2,164,311,825	△8,683,226	△0.4
公共下水道事業企業償償還金	1,217,945,000	-	1,217,945,000	1,217,944,285	22.3	-	715	100.0	1,235,339,882	△17,395,597	△1.4
特定環境保全公共下水道事業企業償償還金	339,415,000	-	339,415,000	339,414,611	6.2	-	389	100.0	326,110,765	13,303,846	4.1
農業集落排水事業企業償償還金	574,227,000	-	574,227,000	574,226,688	10.5	-	312	100.0	580,355,712	△6,129,024	△1.1
漁業集落排水事業企業償償還金	24,044,000	-	24,044,000	24,043,015	0.4	-	985	100.0	22,505,466	1,537,549	6.8
投資	1,769,000	-	1,769,000	282,144	0.0	-	1,486,856	15.9	202,557	79,587	39.3
基金費	1,769,000	-	1,769,000	282,144	0.0	-	1,486,856	15.9	202,557	79,587	39.3
合計	6,153,751,000	2,027,122,255	8,180,873,255	5,453,320,763	100.0	1,802,666,473	924,886,019	66.7	4,890,689,724	562,631,039	11.5

(税込)

収入合計は 3,370,191,834 円で、予算額 6,171,335,510 円に対して 2,801,143,676 円少なく、収入率は 54.6% である。

主な理由は、公共下水道事業企業債が予算額を下回ったことによるものである。

支出合計は 5,453,320,763 円、翌年度繰越額は 1,802,666,473 円で、予算額 8,180,873,255 円に対し 924,886,019 円の不用額を生じ、執行率は 66.7% である。

不用額の主なものは、公共下水道事業拡張費 487,778,400 円、公共下水道事業無形固定資産購入費 166,607,372 円である。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 2,083,128,929 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 169,529,079 円、減債積立金 739,664,065 円、過年度分損益勘定留保資金 64,036,718 円及び当年度分損益勘定留保資金 1,109,899,067 円で補てんされている。

### (3) その他の予算事項

地方公営企業法施行令第 17 条に規定する予算に係る事項の執行状況は、次のとおりである。

#### ① 債務負担行為

債務負担行為をすることができる事項、期間及び限度額は、予算に定めるとおり執行されている。

#### ② 企業債

起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、予算に定めるとおり執行されている。

#### ③ 一時借入金

当年度の一時借入金限度額は、300,000,000 円であったが、執行はなかった。

#### ④ 予定支出の各項の経費の金額の流用

営業費用と営業外費用との間及び建設改良費と投資との間において、流用はなかった。

#### ⑤ 議会の議決を経なければ流用することのできない経費

職員給与費 248,387,000 円であり、流用はなく、予算の範囲内で執行されている。

#### ⑥ 他会計からの補助金

一般会計からの補助金は 1,580,197,000 円（収益的収入 1,326,037,000 円、資本的収入 254,160,000 円）である。

#### ⑦ たな卸資産購入限度額

当年度のたな卸資産購入限度額は、1,500,000 円であったが、執行はなかった。

### 3 経営成績について

当年度の経営成績を前年度と対比すると、次の損益計算書のとおりである。

営業収益は 2,789,099,361 円で、前年度に比べ 126,829,441 円増加し、営業費用は 3,988,405,058 円で、前年度に比べ 111,445,785 円増加している。この結果、営業損失は 1,199,305,697 円で、前年度に比べ 15,383,656 円減少している。

営業外収益は 2,486,283,023 円で、前年度に比べ 4,329,124 円減少し、営業外費用は 413,060,495 円で、前年度に比べ 23,072,221 円減少している。これにより、経常利益は 873,916,831 円、当年度純利益は 873,866,039 円である。

(損益計算書)

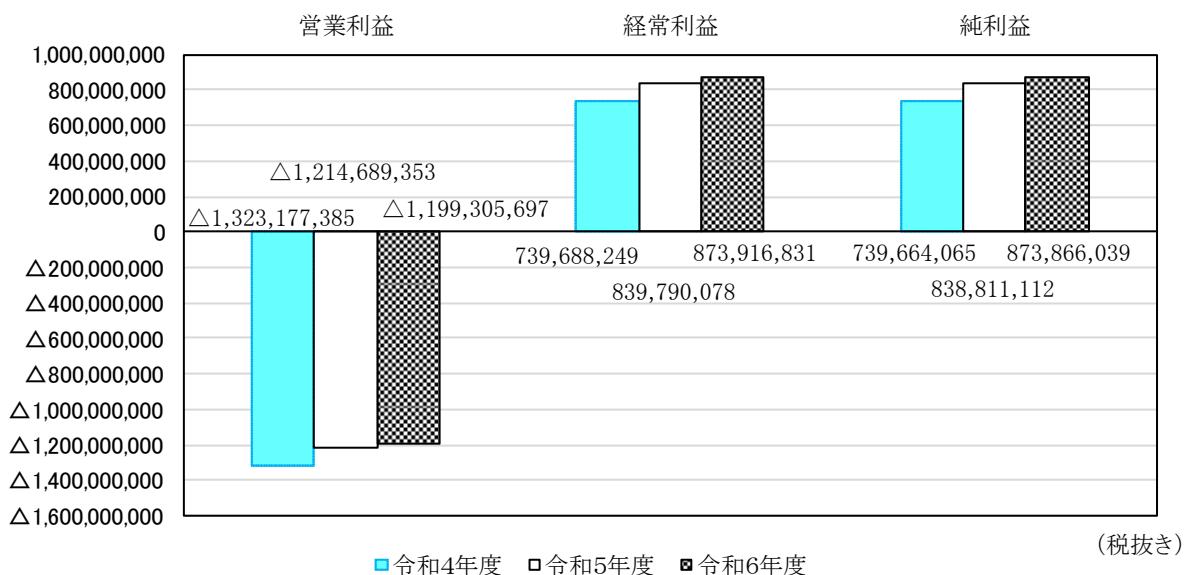
(単位:円)

科 目	令和6年度		令和5年度		比較増減
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	
営業収益	2,789,099,361	100.0	2,662,269,920	100.0	126,829,441
事業収益	2,718,899,381	97.5	2,616,850,340	98.3	102,049,041
他会計補助金	69,743,000	2.5	45,259,000	1.7	24,484,000
その他営業収益	456,980	0.0	160,580	0.0	296,400
営業費用	3,988,405,058	100.0	3,876,959,273	100.0	111,445,785
管渠費	140,460,352	3.5	123,634,394	3.2	16,825,958
ポンプ場費	38,978,503	1.0	30,081,228	0.8	8,897,275
処理場費	1,272,901,667	31.9	1,235,141,865	31.9	37,759,802
総係費	147,317,119	3.7	134,453,223	3.5	12,863,896
減価償却費	2,374,889,027	59.6	2,341,734,745	60.3	33,154,282
資産減耗費	13,858,390	0.3	11,913,818	0.3	1,944,572
営業損失	1,199,305,697		1,214,689,353		△15,383,656
営業外収益	2,486,283,023	100.0	2,490,612,147	100.0	△4,329,124
受取利息及び配当金	894,203	0.0	212,958	0.0	681,245
他会計補助金	1,256,294,000	50.5	1,274,693,000	51.2	△18,399,000
長期前受金戻入	1,217,353,748	49.0	1,203,582,507	48.3	13,771,241
雑収益	11,741,072	0.5	12,123,682	0.5	△382,610
営業外費用	413,060,495	100.0	436,132,716	100.0	△23,072,221
支払利息及び企業債取扱諸費	408,992,363	99.0	431,635,775	99.0	△22,643,412
雑支出	4,068,132	1.0	4,496,941	1.0	△428,809
経常利益	873,916,831		839,790,078		34,126,753
特別利益	459,203	100.0	305,448	100.0	153,755
過年度損益修正益	459,203	100.0	305,448	100.0	153,755
その他特別利益	-	-	-	-	-
特別損失	509,995	100.0	1,284,414	100.0	△774,419
過年度損益修正損	509,995	100.0	1,284,414	100.0	△774,419
当年度純利益	873,866,039		838,811,112		35,054,927
前年度繰越利益余剰金	-		-		-
当年度未処分利益剰余金	873,866,039		838,811,112		35,054,927

(税抜き)

## (経営成績年度比較)

(単位:円)



なお、経営成績及び主要な利益指標の推移を見ると、次表のとおりである。

## (経営成績及び主要な利益指標年度比較)

(単位:円)

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
下水道事業収益	5,064,524,308	5,153,187,515	5,275,841,587
うち営業収益	2,534,489,135	2,662,269,920	2,789,099,361
下水道事業費	4,324,860,243	4,314,376,403	4,401,975,548
うち営業費用	3,857,666,520	3,876,959,273	3,988,405,058
当年度純利益	739,664,065	838,811,112	873,866,039
前年度繰越利益剰余金	-	-	-
当年度未処分利益剰余金	739,664,065	838,811,112	873,866,039
総収支比率 (%)	117.1	119.4	119.9
営業収支比率 (%)	65.7	68.7	69.9
総資本利益率 (%)	1.0	1.1	1.1

(税抜き)

(注) 総資本利益率 = (経常利益 / ((期首負債資本 + 期末負債資本) × 1/2)) × 100

総資本利益率は、投下資本に対してどれだけの純利益を上げたかという資本効率を示すものである。率が高いほど総合的な収益性が高いと言える。

## (1) 営業収益及び営業費用

営業収益は 2,789,099,361 円で、前年度に比べ 126,829,441 円 (4.8%) 増加している。主な理由は、事業収益の増加である。営業収益の構成を見ると、97.5%が事業収益で、2.5%が他会計補助金である。

営業費用は 3,988,405,058 円で、前年度に比べ 111,445,785 円 (2.9%) 増加している。主な理由は、処理場費の増加である。営業費用の構成を見ると、減価償却費が 59.6%、処理場費が 31.9% となっている。なお、営業費用の構成は次表のとおりである。

## (営業費用構成年度比較)

(単位:円)

区分	令和6年度 構成比(%)	令和5年度 構成比(%)	比較増減
管 渠 費	140,460,352 3.5	123,634,394 3.2	16,825,958
ポンプ場費	38,978,503 1.0	30,081,228 0.8	8,897,275
処理場費	1,272,901,667 31.9	1,235,141,865 31.9	37,759,802
総係費	147,317,119 3.7	134,453,223 3.5	12,863,896
減価償却費	2,374,889,027 59.6	2,341,734,745 60.3	33,154,282
資産減耗費	13,858,390 0.3	11,913,818 0.3	1,944,572
合 計	3,988,405,058 100.0	3,876,959,273 100.0	111,445,785

(税抜き)

次に、営業費用を性質別に見ると、次表のとおりである。

## (営業費用性質別年度比較)

(単位:円)

区分	令和6年度 構成比(%)	令和5年度 構成比(%)	比較増減
給与費等	99,159,660 2.5	88,595,995 2.3	10,563,665
委託料	456,647,792 11.4	441,900,512 11.4	14,747,280
修繕費等	118,847,611 3.0	112,633,271 2.9	6,214,340
動力費等	213,298,685 5.3	190,957,155 4.9	22,341,530
負担金	664,828,711 16.7	649,106,024 16.8	15,722,687
減価償却費等	2,388,747,417 59.9	2,353,648,563 60.7	35,098,854
その他の	46,875,182 1.2	40,117,753 1.0	6,757,429
合 計	3,988,405,058 100.0	3,876,959,273 100.0	111,445,785

(税抜き)

(注) 1.給与費等には、給料のほか手当、賞与引当金繰入額、法定福利費及び退職給付費を含む。

2.動力費等には、動力費のほか光熱水費及び通信運搬費、薬品費を含む。

3.減価償却費等には、減価償却費のほか、資産減耗費を含む。

## (2) 営業外収益及び営業外費用

営業外収益は2,486,283,023円で、前年度に比べ4,329,124円(△0.2%)減少している。主な理由は、他会計補助金の減少である。

営業外費用は413,060,495円で、前年度に比べ23,072,221円(△5.3%)減少している。主な理由は、支払利息及び企業債取扱諸費の減少である。

## (3) 特別利益及び特別損失

特別利益は459,203円で、前年度に比べ153,755円(50.3%)増加している。主な理由は、過年度損益修正益の増加である。

特別損失は509,995円で、前年度に比べ774,419円(△60.3%)減少している。この理由は、過年度損益修正損の減少である。

#### (4) 原価計算

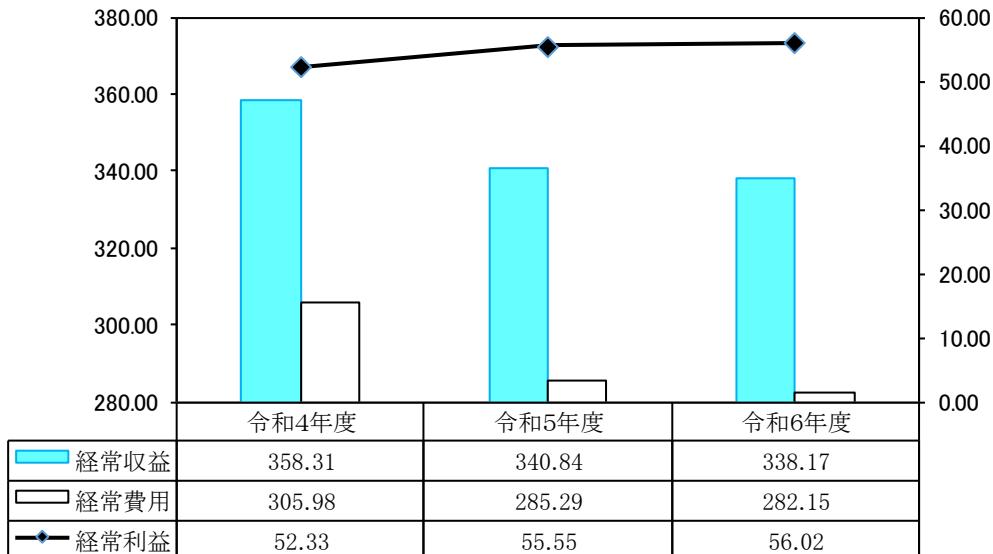
有収水量 1 m<sup>3</sup>当たりの収益及び費用は、次表のとおりである。

単位当たりの経常収益は、前年度に比べ 2.67 円減少し、経常費用は 3.14 円減少している。この結果、経常利益は 0.47 円増加している。

使用料単価は、前年度に比べ 1.20 円増加し、汚水処理原価は 0.50 円増加している。この結果、使用料単価から汚水処理原価の差引は 0.70 円増加している。

(単位当たり経常利益年度比較)

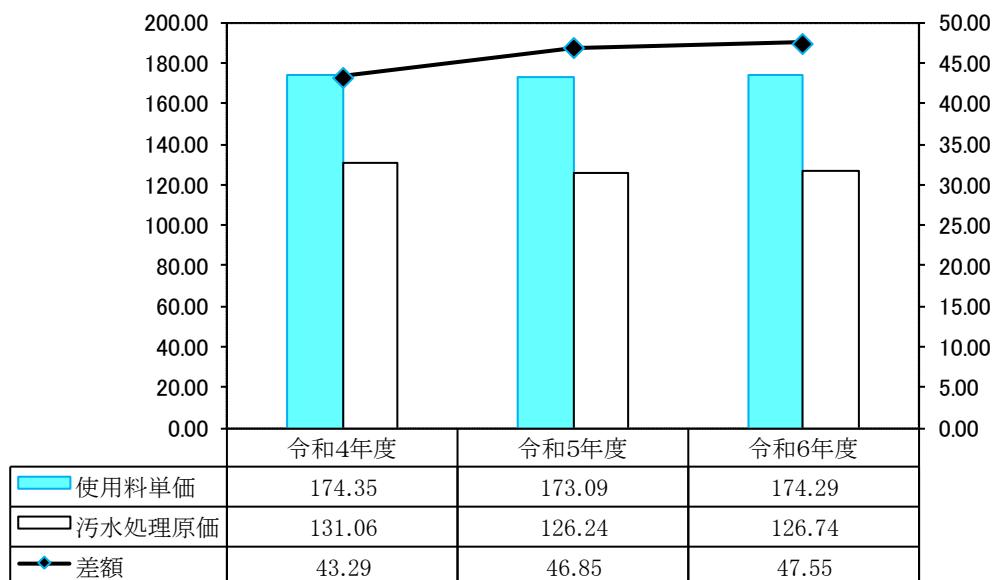
(単位:円／m<sup>3</sup>)



(税抜き)

(単位当たり使用料単価及び汚水処理原価年度比較)

(単位:円／m<sup>3</sup>)



(税抜き)

(注)汚水処理原価(使用料対象原価)=経常費用-(不用品売却原価+基準内繰入金(収益的収入分))-長期前受金戻入(元金償還に係る一般会計補助金収益化額を除く)/年間総有収水量

#### (5) 剰余金計算

剰余金の当年度中の増減状況は、次頁のとおりである。

当年度未処分利益剰余金 873,866,039 円は、全額、減債積立金に積み立てる予定としている。

## (剩余金計算書)

(単位:円)

資本金		剩 余 金							資本合計	
		資 本 剩 余 金				利 益 剩 余 金				
		受贈財産 評価額	補助金	受益者負 担金及び 分担金	資本 剰余金 合計	減債 積立金	未処分利益 剰余金	利益 剰余金 合計		
前年度末残高	10,902,400,116	34,428,010	568,812,476	922,499	604,162,985	739,664,065	838,811,112	1,578,475,177	13,085,038,278	
前年度剰余金の処分額	-	-	-	-	-	-	838,811,112	△838,811,112	-	
諫早市上下水道事業の設置等に関する条例第6条第1項による処分額	-	-	-	-	-	-	838,811,112	△838,811,112	-	
減債積立金の積立	-	-	-	-	-	-	838,811,112	△838,811,112	-	
処分後残高	10,902,400,116	34,428,010	568,812,476	922,499	604,162,985	1,578,475,177	(繰越利益剰余金) -	1,578,475,177	13,085,038,278	
当年度変動額	939,289,065	405,790	-	-	405,790	△739,664,065	873,866,039	134,201,974	1,073,896,829	
出資金の受入	199,625,000	-	-	-	-	-	-	-	199,625,000	
資本金への組入	739,664,065	-	-	-	-	△739,664,065	-	△739,664,065	-	
資本剰余金の受入	-	405,790	-	-	405,790	-	-	-	405,790	
当年度純利益	-	-	-	-	-	-	873,866,039	873,866,039	873,866,039	
当年度末残高	11,841,689,181	34,833,800	568,812,476	922,499	604,568,775	838,811,112	(当年度未処分 利益剰余金) 873,866,039	1,712,677,151	14,158,935,107	

## (6) 各下水道事業別の経営成績

各下水道事業の経営成績は、次表のとおりである。

事業別に当年度の純利益（純損失）を見ると、公共下水道事業は純利益 888,787,405 円、特定環境保全公共下水道事業は純損失 34,953,305 円、農業集落排水事業は純利益 20,372,493 円、漁業集落排水事業は純損失 340,554 円である。

(事業別経営成績)

(単位:円)

科 目	公共下水道事業	特定環境保全 公共下水道事業	農 業 集 落 排 水 事 業	漁 業 集 落 排 水 事 業	合 計
営業収益	2,375,947,871	178,261,790	212,806,139	22,083,561	2,789,099,361
事業収益	2,319,416,011	172,503,230	205,161,139	21,819,001	2,718,899,381
他会計補助金	56,086,000	5,758,000	7,637,000	262,000	69,743,000
その他営業収益	445,860	560	8,000	2,560	456,980
営業費用	2,563,375,435	631,734,241	736,094,431	57,200,951	3,988,405,058
管渠費	39,125,633	27,772,878	72,646,647	915,194	140,460,352
ポンプ場費	38,978,503	-	-	-	38,978,503
処理場費	981,112,396	133,493,518	144,772,306	13,523,447	1,272,901,667
総係費	107,785,902	15,661,221	22,171,894	1,698,102	147,317,119
減価償却費	1,386,938,093	452,868,355	494,315,074	40,767,505	2,374,889,027
資産減耗費	9,434,908	1,938,269	2,188,510	296,703	13,858,390
営業利益(損失)	△187,427,564	△453,472,451	△523,288,292	△35,117,390	△1,199,305,697
営業外収益	1,302,599,285	507,730,791	635,706,322	40,246,625	2,486,283,023
受取利息及び配当金	894,203	-	-	-	894,203
他会計補助金	602,226,000	267,761,000	368,107,000	18,200,000	1,256,294,000
長期前受金戻入	688,072,278	239,653,640	267,582,276	22,045,554	1,217,353,748
雑収益	11,406,804	316,151	17,046	1,071	11,741,072
営業外費用	226,316,550	89,216,791	92,057,365	5,469,789	413,060,495
支払利息及び企業債取扱 諸費	223,113,022	88,756,848	91,665,933	5,456,560	408,992,363
雑支出	3,203,528	459,943	391,432	13,229	4,068,132
経常利益(損失)	888,855,171	△34,958,451	20,360,665	△340,554	873,916,831
特別利益	418,310	27,710	13,183	-	459,203
過年度損益修正益	418,310	27,710	13,183	-	459,203
その他特別利益	-	-	-	-	-
特別損失	486,076	22,564	1,355	-	509,995
過年度損益修正損	486,076	22,564	1,355	-	509,995
当年度純利益	888,787,405	△34,953,305	20,372,493	△340,554	873,866,039
前年度繰越利益剰余金	-	-	-	-	-
当年度未処分利益剰余金(未処理 欠損金)	888,787,405	△34,953,305	20,372,493	△340,554	873,866,039

(税抜き)

#### 4 財政状態について

当年度末の財政状態を前年度と対比すると、次頁の貸借対照表のとおりである。

資産の部では、固定資産が 73,748,653,693 円で、前年度に比べ 631,249,175 円 (0.9%) 増加している。資産合計は 76,523,371,116 円で、前年度に比べ 770,585,829 円 (1.0%) 増加している。

負債及び資本の部では、負債合計が 62,364,436,009 円で、前年度に比べ 303,311,000 円 ( $\triangle 0.5\%$ ) 減少し、資本合計は 14,158,935,107 円で、前年度に比べ 1,073,896,829 円 (8.2%) 増加している。

各区分の財政状態の詳細は次のとおりである。

##### (1) 資産の部

有形固定資産は 70,694,341,829 円で、前年度に比べ 677,850,337 円増加している。主な理由は構築物並びに建設仮勘定の増加である。

無形固定資産は 2,548,815,997 円で、前年度に比べ 46,883,306 円減少している。主な理由は、施設利用権の減少である。

また、流動資産は 2,774,717,423 円で、前年度に比べ 139,336,654 円増加している。主な理由は、現金・預金の増加である。

##### (2) 負債の部

固定負債は 25,403,542,530 円で、前年度に比べ 277,874,777 円減少している。主な理由は、建設改良費等の財源に充てるための企業債の減少である。

また、流動負債は 2,857,245,334 円で、前年度に比べ 147,179,016 円減少している。主な理由は、建設改良費等の財源に充てるための企業債の減少である。

##### (3) 資本の部

資本金は 11,841,689,181 円で、前年度に比べ 939,289,065 円増加している。

剰余金は 2,317,245,926 円で、前年度に比べ 134,607,764 円増加している。

企業債の概況は次のとおりである。

前年度末残高 27,692,972,783 円

当年度発行額 1,722,900,000 円

当年度償還額 2,155,628,599 円

当年度末残高 27,260,244,184 円

企業債の未償還残高は、前年度に比べ 432,728,599 円減少している。

(貸借対照表)

(単位:円)

科 目	令和6年度			令和5年度			比較増減
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)			
<b>(資産の部)</b>							
<b>1 固定資産</b>							
(1) 有形固定資産							
イ 土地	1,256,842,706	1.6	1,256,436,916	1.7	405,790		
ロ 建物	3,017,427,714		3,015,897,521				
減価償却累計額	△1,026,972,465		△959,841,349				
ハ 構築物	83,589,275,112		81,410,579,663				
減価償却累計額	△22,833,253,921		△21,036,097,046				
ニ 機械及び装置	11,780,741,509		11,400,974,468				
減価償却累計額	△7,764,596,733		△7,413,648,988				
ホ 車両運搬具	7,104,864		7,104,864				
減価償却累計額	△5,188,945		△4,505,939				
ヘ 工具器具及び備品	31,813,950		26,930,150				
減価償却累計額	△19,780,431		△17,666,579				
ト 建設仮勘定	2,660,928,469	3.5					
<b>有形固定資産合計</b>	<b>70,694,341,829</b>	<b>92.4</b>					
(2) 無形固定資産							
イ 施設利用権	2,535,774,450	3.3	2,576,255,835	3.4	△40,481,385		
ロ ソフトウェア	13,041,547	0.0	19,443,468	0.0	△6,401,921		
<b>無形固定資産合計</b>	<b>2,548,815,997</b>	<b>3.3</b>					
(3) 投資その他の資産							
イ 基金	505,495,867	0.7	505,213,723	0.7	282,144		
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>505,495,867</b>	<b>0.7</b>					
<b>固定資産合計</b>	<b>73,748,653,693</b>	<b>96.4</b>					
<b>2 流動資産</b>							
(1) 現金・預金	1,905,056,735	2.5	1,632,969,514	2.2	272,087,221		
(2) 未収金	872,420,488	1.1	1,003,555,255	1.3	△131,134,767		
貸倒引当金	△10,500,000	△0.0	△9,000,000	△0.0	△1,500,000		
(3) 貯蔵品	7,740,200	0.0	7,856,000	0.0	△115,800		
(4) 前払金	-	-	-	-	-		
<b>流動資産合計</b>	<b>2,774,717,423</b>	<b>3.6</b>					
<b>資産合計</b>	<b>76,523,371,116</b>	<b>100.0</b>					

(税抜き)

## (貸借対照表)

(単位:円)

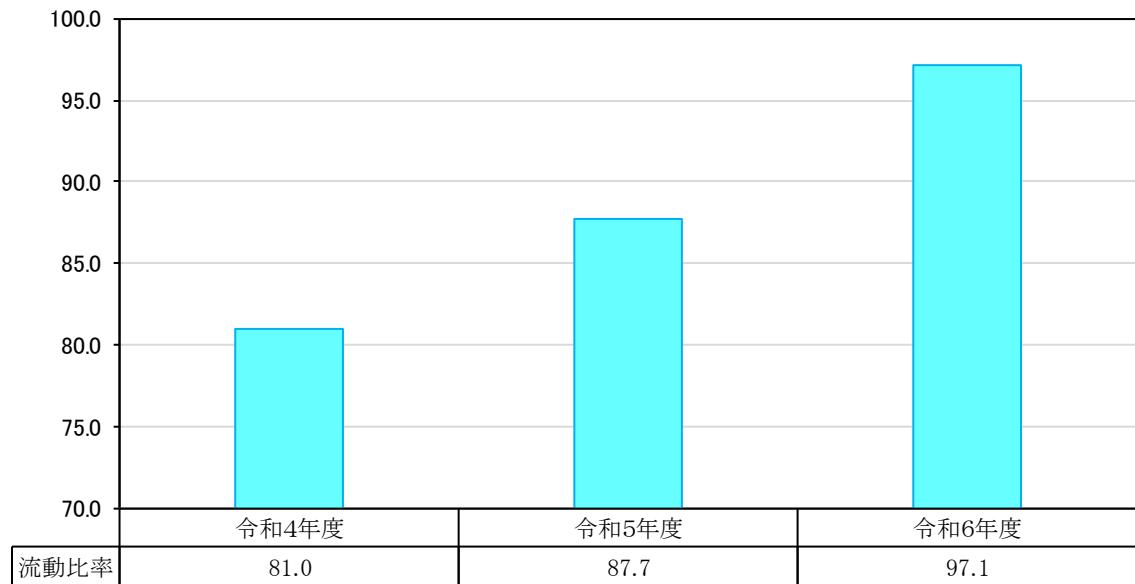
科 目	令和6年度		令和5年度		比較増減
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	
<b>(負債の部)</b>					
<b>3 固定負債</b>					
(1) 企業債 イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	25,250,207,138	33.0	25,537,344,184	33.7	△287,137,046
(2) 引当金 イ 退職給付引当金	153,335,392	0.2	144,073,123	0.2	9,262,269
<b>固定負債合計</b>	<b>25,403,542,530</b>	<b>33.2</b>	<b>25,681,417,307</b>	<b>33.9</b>	<b>△277,874,777</b>
<b>4 流動負債</b>					
(1) 企業債 イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	2,010,037,046	2.6	2,155,628,599	2.8	△145,591,553
(2) 未払金	801,602,832	1.0	753,637,898	1.0	47,964,934
(3) 前受金	4,846	0.0	4,356	0.0	490
(4) 引当金 イ 賞与引当金	17,835,000	0.0	18,472,000	0.0	△637,000
(5) その他流動負債	27,765,610	0.0	76,681,497	0.1	△48,915,887
<b>流動負債合計</b>	<b>2,857,245,334</b>	<b>3.6</b>	<b>3,004,424,350</b>	<b>3.9</b>	<b>△147,179,016</b>
<b>5 繰延収益</b>					
(1) 長期前受金	51,066,111,481	66.7	49,768,562,825	65.7	1,297,548,656
収益化累計額 △16,962,463,336	△22.2		△15,786,657,473	△20.8	△1,175,805,863
<b>繰延収益合計</b>	<b>34,103,648,145</b>	<b>44.5</b>	<b>33,981,905,352</b>	<b>44.9</b>	<b>121,742,793</b>
<b>負債合計</b>	<b>62,364,436,009</b>	<b>81.3</b>	<b>62,667,747,009</b>	<b>82.7</b>	<b>△303,311,000</b>
<b>(資本の部)</b>					
<b>6 資本金</b>	<b>11,841,689,181</b>	<b>15.8</b>	<b>10,902,400,116</b>	<b>14.4</b>	<b>939,289,065</b>
<b>7 剰余金</b>					
(1) 資本剰余金 イ 受贈財産評価額	34,833,800	0.0	34,428,010	0.0	405,790
ロ 補助金	568,812,476	0.7	568,812,476	0.8	-
ハ 受益者負担金及び分担金	922,499	0.0	922,499	0.0	-
<b>資本剰余金合計</b>	<b>604,568,775</b>	<b>0.7</b>	<b>604,162,985</b>	<b>0.8</b>	<b>405,790</b>
(2) 利益剰余金 イ 減債積立金	838,811,112	1.1	739,664,065	1.0	99,147,047
ロ 当年度未処分利益 剰余金	873,866,039	1.1	838,811,112	1.1	35,054,927
<b>利益剰余金合計</b>	<b>1,712,677,151</b>	<b>2.2</b>	<b>1,578,475,177</b>	<b>2.1</b>	<b>134,201,974</b>
<b>剰余金合計</b>	<b>2,317,245,926</b>	<b>2.9</b>	<b>2,182,638,162</b>	<b>2.9</b>	<b>134,607,764</b>
<b>資本合計</b>	<b>14,158,935,107</b>	<b>18.7</b>	<b>13,085,038,278</b>	<b>17.3</b>	<b>1,073,896,829</b>
<b>負債資本合計</b>	<b>76,523,371,116</b>	<b>100.0</b>	<b>75,752,785,287</b>	<b>100.0</b>	<b>770,585,829</b>

(税抜き)

ここで、主な財政比率の推移は次のとおりである。

(流動比率)

(単位:%)

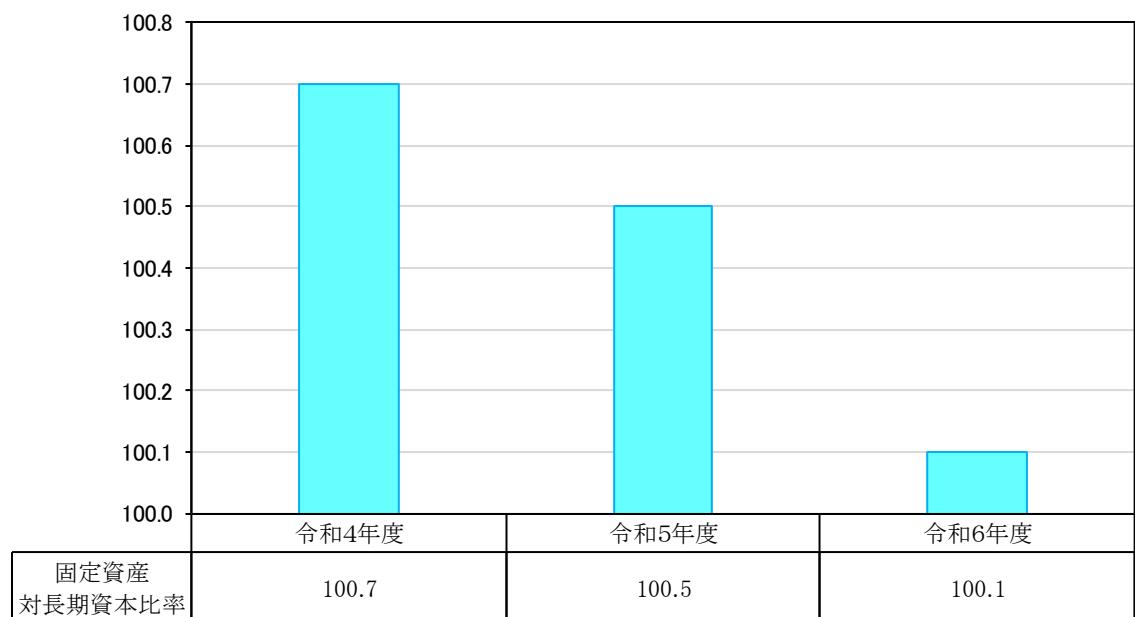


※流動比率=(流動資産／流動負債)×100

流動比率は、流動負債に対する流動資産の割合であり、短期債務に対する支払能力を表している。流動比率は、100%以上であることが望ましい。

(固定資産対長期資本比率)

(単位:%)



※固定資産対長期資本比率=(固定資産／(資本金+剰余金+固定負債+繰延収益))×100

固定資産対長期資本比率は、固定資産がどの程度長期資本(自己資本(資本金+剰余金+繰延収益)及び長期借入金(固定負債))によって調達されているかを示すものである。この比率は100%以下で、かつ低いことが望ましい。

## 5 資金収支の状況について

業務活動によるキャッシュ・フローは、通常の業務活動の実施に係る資金の状態を表し、投資活動によるキャッシュ・フローは、将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表し、財務活動によるキャッシュ・フローは、業務活動及び投資活動を行うための財務活動に係る資金の状態を表している。

キャッシュ・フロー計算書の推移は次表のとおりである。

(キャッシュ・フロー計算書)

(単位:円)

区分	令和6年度	令和5年度	増減
<b>1 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
当年度純利益	873,866,039	838,811,112	35,054,927
減価償却費	2,374,889,027	2,341,734,745	33,154,282
固定資産除却費	13,858,390	11,913,818	1,944,572
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,500,000	△1,300,000	2,800,000
退職給付引当金の増減額(△は減少)	9,262,269	12,206,282	△2,944,013
賞与引当金の増減額(△は減少)	△400,000	△652,000	252,000
長期前受金戻入額	△1,217,353,748	△1,203,582,507	△13,771,241
受取利息及び受取配当金	△894,203	△212,958	△681,245
支払利息	408,992,363	431,635,775	△22,643,412
未収金の増減額(△は増加)	92,521,506	△142,229,546	234,751,052
未払金の増減額(△は減少)	△57,978,191	37,837,976	△95,816,167
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,990	△4,487,250	4,489,240
前払金の増減額(△は増加)	-	-	-
前受金の増減額(△は減少)	490	△238,950	239,440
預り金の増減額(△は減少)	△48,915,887	32,139,592	△81,055,479
<b>小計</b>	<b>2,449,350,045</b>	<b>2,353,576,089</b>	<b>95,773,956</b>
利息及び配当金の受取額	894,203	212,958	681,245
利息の支払額	△408,992,363	△431,635,775	22,643,412
<b>業務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,041,251,885</b>	<b>1,922,153,272</b>	<b>119,098,613</b>

### 2 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出	△2,854,874,422	△2,124,190,846	△730,683,576
無形固定資産の取得による支出	△49,715,301	△92,609,699	42,894,398
基金積立てによる支出	△282,144	△202,557	△79,587
国庫補助金等による収入	1,094,850,802	852,223,518	242,627,284
一般会計からの補助金による収入	245,825,000	247,618,000	△1,793,000
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,564,196,065</b>	<b>△1,117,161,584</b>	<b>△447,034,481</b>

### 3 財務活動によるキャッシュ・フロー

建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	1,722,900,000	1,447,700,000	275,200,000
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△2,155,628,599	△2,164,311,825	8,683,226
他会計からの出資による収入	227,760,000	262,586,000	△34,826,000
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△204,968,599</b>	<b>△454,025,825</b>	<b>249,057,226</b>

資金増加額(又は減少額)	272,087,221	350,965,863	△78,878,642
資金期首残高	1,632,969,514	1,282,003,651	350,965,863
資金期末残高	1,905,056,735	1,632,969,514	272,087,221

(税抜き)

業務活動によるキャッシュ・フローは、2,041,251,885 円で、前年度に比べ 119,098,613 円増加している。主な理由は未収金の減少によるものである。

投資活動によるキャッシュ・フローは、△1,564,196,065 円で、前年度に比べ 447,034,481 円減少している。主な理由は、有形固定資産の取得による支出の増加によるものである。

財務活動によるキャッシュ・フローは、△204,968,599 円で、前年度に比べ 249,057,226 円増加している。主な理由は、建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入の増加によるものである。

以上の 3 区分から当年度の資金は、272,087,221 円の増加となり、資金期末残高は 1,905,056,735 円となる。

キャッシュ・フローを見ると、業務活動で十分なキャッシュを生み出し、投資と借入金の返済もできており一般的にいう優良企業型である。

## 6 セグメント情報

### (1) 報告セグメントの概要

諫早市下水道事業会計は、公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業、農業集落排水事業及び漁業集落排水事業を運営しており、各事業で地理的条件や地域性の違いから収益状況等が異なることから、それらを報告セグメントとしている。

なお、各報告セグメントに属する事業の内容は、次表のとおりである。

事 業 区 分	事 業 の 内 容
公共下水道事業	市街地における、し尿、生活排水等の処理
特定環境保全公共下水道事業	市街地以外における、し尿、生活排水等の処理
農業集落排水事業	農業集落における、し尿、生活排水等の処理
漁業集落排水事業	漁業集落における、し尿、生活排水等の処理

### (2) 報告セグメントごとの経常損益

当年度の報告セグメントのうち、経常損益は、次表のとおりである。

(単位:円)

	公共下水道事業	特定環境保全 公共下水道事業	農 業 集 落 排 水 事 業	漁 業 集 落 排 水 事 業	合 計
令和6年度	888,855,171	△34,958,451	20,360,665	△340,554	873,916,831
令和5年度	844,659,977	△37,618,818	30,429,884	2,319,035	839,790,078
比較増減	44,195,194	2,660,367	△10,069,219	△2,659,589	34,126,753

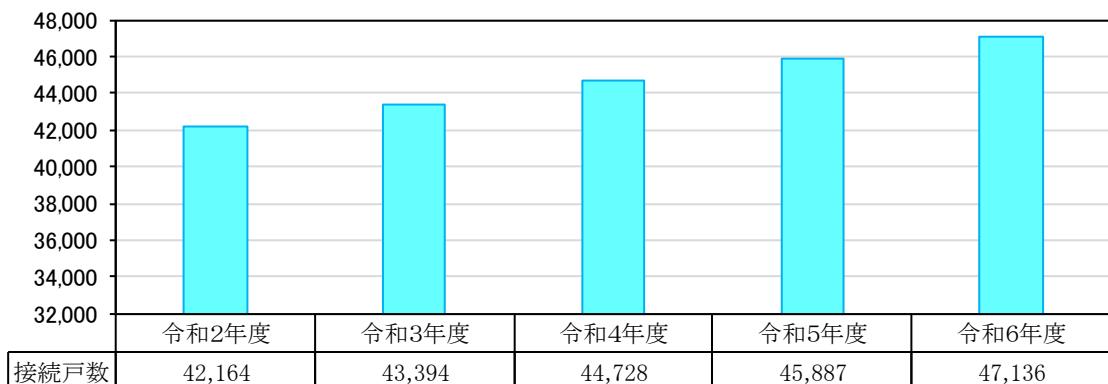
(税抜き)

## 7 むすび

諫早市下水道事業における、接続戸数、接続率及び年間有収水量の推移は、次のとおりである。

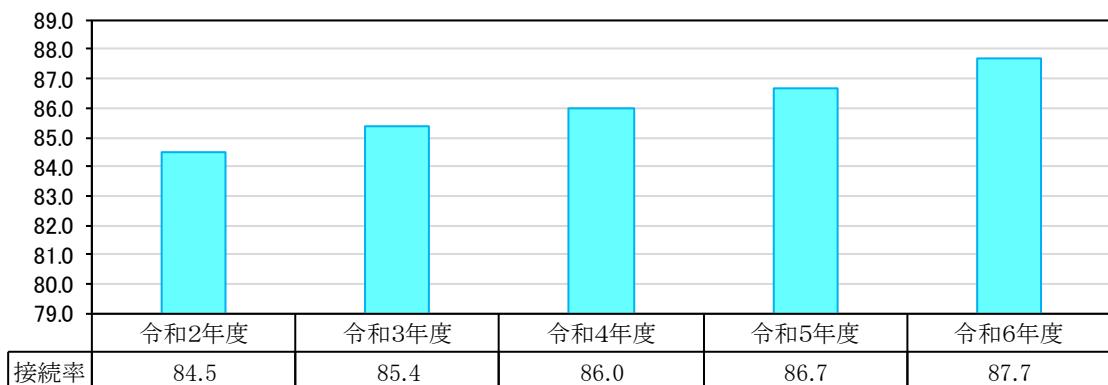
(接続戸数)

(単位:戸)



(接続率)

(単位:%)

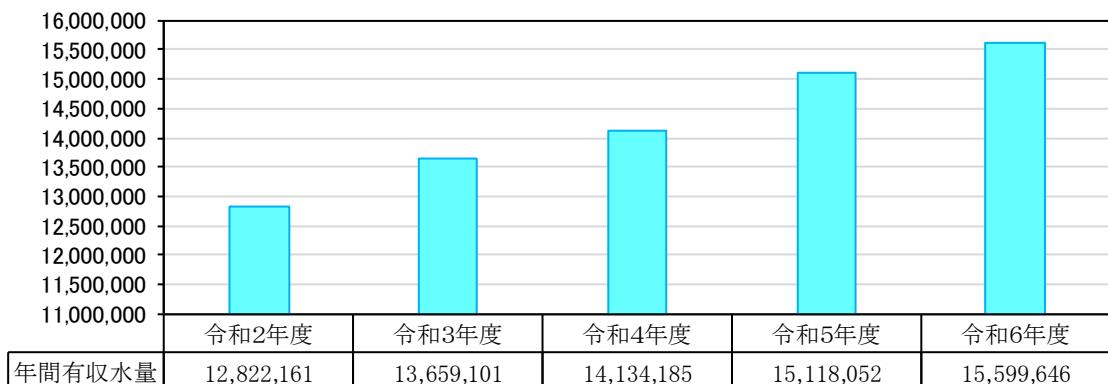


当年度の接続戸数は、前年度に比べ 1,249 戸増加し、接続率は 1.0 ポイント上昇している。

人口減少や節水機器の普及などにより、1 戸当たりの使用水量が大幅に増えることは難しいので、引き続き供用開始区域内の更なる接続を推進し、下水道使用料の增收を図っていく必要がある。

(年間有収水量)

(単位:m<sup>3</sup>)



接続戸数と接続率の増加に伴い、当年度の年間有収水量は前年度に比べ 481,594 m<sup>3</sup>増加している。

下水道事業の業務実績の年度別推移では、供用開始区域内における下水道への接続戸数及び接続率は年々上昇傾向にあり、有収水量も増加している。しかしながら、人口減少等の影響により、今後は使用料収入の大幅な増加は見込めず、また、施設・設備の老朽化に起因する更新投資の増大や企業債償還（令和6年度末企業債残高 27,260,244,184円）が続くなど、財政的な負担は今後も継続することが予想され、下水道事業経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況にある。

また近年、激甚化・頻発化する自然災害による下水道を含むライフラインへの甚大な被害が生じ市民生活や社会経済活動に深刻な影響を及ぼしている。とりわけ、地震や浸水被害による排水・処理機能の停止や処理施設の損壊は、下水道事業の継続性に重大なリスクをもたらすものである。このような状況を踏まえ、今後、持続可能な下水道事業経営を確保するため自然災害に強い、下水道施設の耐震化・耐水化を計画的かつ着実に推進する必要がある。

令和6年度に策定された「諫早市下水道経営戦略2024」により現在事業が進められている。これまでも普及率や接続率の向上に向けた取組が進められているが、引き続き未接続者に対する戸別訪問等を通じ、更なる接続促進を図られたい。また、地方公営企業の独立採算制の原則を踏まえ、安定的に使用料収入を確保することにより、今後も一般会計からの基準外繰入金や企業債残高の縮減に努められたい。

老朽化する管路や処理場等の施設の更新等については、「ストックマネジメント計画」に基づき、引き続き長期的展望に立った計画的かつ効率的な整備を実施することにより、施設の長寿命化と管理の最適化に努められたい。

各下水道事業（報告セグメント）の経営成績を見ると、公共下水道事業、農業集落排水事業の経常損益は黒字であるものの、特定環境保全公共下水道事業、漁業集落排水事業では赤字となっている。生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図るうえで、各事業の推進は必要であるが、今後は、農業集落排水事業の公共下水道等への統廃合による経営の効率化の推進、下水道施設の維持管理や事務処理の共同化・民間委託等による経費縮減の取組を検討するなど、経営計画に基づいた経営基盤の改善・強化を着実に進めるとともに、事業経営の効率的かつ効果的な推進に努められたい。